

「アブラムの信仰を義とした」

2020年12月11日

主はアブラムを外に連れ出して言われた。「天を見上げて、星を数えることができるなら、数えてみなさい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。(創世記 15 章 5 節～6 節)

アブラムは、甥ロトが連れ去られ、財産が奪われたことを知って、急遽、私兵を造り、強奪した敵を追い、夜討ちをかけ、取り戻した。ソドムの王と人々は喜び、アブラムを大歓喜して迎え入れた。この時、王であり祭司であるメルキゼデクから祝福を受けた。アブラムに対する神の祝福は揺るぎないものとなった。

これらのことの後、主の言葉が幻の中で、アブラムに臨んだ。アブラムには、事ある毎に神が現れ、神の意志が伝えられている。祭壇を築き、主の名を呼ぶアブラムへの神の応答である。今回の神の言葉は、「恐れるな、アブラムよ。私はあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい」であった。まず「恐れるな」と言われる。神が人に現れることは恐怖である。預言者エレミヤには「だからあなたは恐れるな (エレミヤ 30 : 10)」と呼びかけ、神の言葉を伝えている。天使ガブリエルはマリアに懐妊を告げた時も、「マリア、恐れることはない」と語り、主イエスを産む恵みを伝えている。アブラムにも、まず恐れを取り除き、神はあなたを守る盾であると言う。

次に、アブラムへの神の報いは大きいと告げている。この大きな報いに関し、今まで「大いなる国民になる」、「子孫にこの地を与える」と祝福を聞いていた。しかし、子どもが与えられなかったアブラムは不審に思い、「主なる神よ。私に何をくださるというのですか。私には子どもがいませんのに」と応じている。子どものいない私に子孫への祝福はあり得ない。「家の後継ぎはダマスコのエリエゼルです」と言い、更に「あなたは私に子孫を与えてくださいませんでした。ですから家の僕が後を継ぐのです」と、子どもをくださらない現状に不満と不信を持って、訴えている。すると神の言葉がアブラムに臨み、「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなた自身から生まれ出る者が跡を継ぐ」と告げ、神はアブラムを外に連れ出し、「天を見上げて、星を数えることができるなら、数えてみなさい。あなたの子孫はこのようになる」と言われた。アブラムは満天の星空を仰ぎ、数えきれない星のように子孫は増えるとの祝福の言葉をいただいた。

「アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」短い言葉である。しかし、この言葉に真実がある。アブラムは二度にわたって、子孫への祝福を受けたが、子どもが生まれず、信じることができなかった。三回目に、空の星を見上げ、「あなたの子孫はこのようになる」と言われ、神の言葉を信じ、受け入れた。神はそのアブラムの信仰を見て、彼の義と認められた。「義」は聖書において、重要な言葉である。「義」は裁判用語で「無罪放免」、正しいと宣告されることである。「正しい」とは罪が赦され、神との関係が正しく保たれていることを指している。パウロは信仰義認を「アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた (ガラテヤ 3 : 6)」と、律法を守るという善行によるのではなく、ただ信仰によって罪なしという生の「是認」をいただくことであると捉えている。この一方的に与えられた恵みを、パウロは「福音」と言ったのである。アブラムは神の言葉を信じた。それを、神は義とし、アブラムを神との正しい関係に組み入れ、祝福を確かなものにしたと伝えている。信仰は不信の中で、信ある者とさせられていく恵みである。